

# 会報 茶の間

12月1日現在会員数  
男性 1,409名  
女性 593名  
計 2,002名

# 第151号

◆発行(公社)長野シルバー人材センター ☎ 380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1  
◆電話026-237-8315 ◆FAX026-237-8317



## 会員互助会マレットゴルフ大会



植木班全体講習



シルバー奉仕デイ



障子・襖張班テレビ取材



NEXCO 東日本横断幕再利用バッグ制作の表彰式



長野駅東口公園管理作業

子ども見守りボランティア

事務局  
監事會  
理事會  
專務理事會  
副理事會  
理事長



職小荒藤戸寺玉清近井井飯松山藤福小  
員林井澤谷嶋井水藤出田島下岸橋澤林  
一正惠貞や利圭　愛三むつ正文一範成隆  
同幸子行い光子均郎夫み義子彦之則之

皆様のご健康を心より  
お祈り申し上げます。



# 新年あいさつ

長野シルバー人材センター 理事長

小林 隆之

新年あけましておめで

とうございます。

会員の皆さん、そして日頃より当センターの活動にご理解とご協力を賜っております市民の皆さん、関係機関、事業所の皆さんに、心から感謝申し上げます。

振り返りますと、昨年は災害級とも言われた猛暑や物価上昇など、社会全体が大きな変化に直面した一年でした。人手不足が深刻化する中で、地域を支える「働く力」として、シルバー人材センターの存在意義が一層高まつた年でもあつたと感じております。

そのような中、会員の皆さまが公園や道路の清掃、公共施設の維持管理、除草や農作業、除雪など、さまざまな現場で活躍されました。四季折々の自然に恵まれた長野のまちが、皆さまの手によって美しく、そして安全に保たれていることに、改めて深く感謝申し上げます。

迎える令和8年は、60年に一度巡つくる丙午（ひのえうま）年です。強さやエネルギーを象徴するポジティブな年といわれ

ています。

当センターにおきましても、「安全で安心な就業」「多様な働き方の創出」「地域とともに歩む組織づくり」を柱に、エネルギー شبにさらなる発展を目指してまいります。特に、デジタル技術を活用した情報発信やマッチングの強化、そして女性や新入会員が参加しやすい環境整備を進めてまいります。

また、最も大切なのは、会員お一人おひとりの「安全」と「健康」です。

「安全はすべてに優先する」「安全無くして就業なし」を合言葉に、今年も安全就業講習や現場巡回を充実させ、安心して働ける体制づくりに努めます。

「無理なく・楽しく・社会の役に立つ」活動こそが、長く続く秘訣であり、シルバー人材センターの原点です。

本年も、皆さまの経験と知恵と力を結集し、地域に笑顔と元気を届けられるよう職員一同力を合わせてまいります。

結びに、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。



## 定例議題・報告事項

- ①新入会員の承認
- ②各部会等活動報告
- ③契約状況
- ④事故報告
- ⑤苦情等報告

## 議案

第4回（6月25日）

映像班（独自事業）の設置について

地域活動推進委員会委員の選任について

第5回（7月29日）

理事候補者選考委員会委員の選任について

市長・町長等への支援要請について

第6回（9月24日）

令和8年度配分金単価の設定について

育児・介護休業規程の一部改正について

第7回（10月30日）

顧問の選任について

第8回（11月26日）

顧問の選任について

新たな契約方式（包括契約）への移行について

理  
事  
会  
報  
告





**長野市長 荻原 健司**  
明けましておめでとうございます。

長野シルバー人材センターの皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、長期化する物価高騰や米不足による米価格の高騰と備蓄米の放出、さらに



**信濃町長 鈴木 文雄**  
新年、明けましておめでとうございます。

会員各位をはじめ、関係の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、地域社会の様々な場面でご尽力いただき、心より感謝申し上げます。皆様の熟

練された技術や豊かな経験が、まちづくりにおける大きな力となり、そのおかげで町全体が活気づきました。お一人お一人の努力が、私達の未来を支える大きな礎となつております。

本年も、皆様の活動がより一層発展し、町の誰もが安心して暮らせる、暖かい地域を共に築き上げていきたいと考えております。

本年も、誰もがキラキラと輝く、明るく未来ある長野市、選ばれる・世界に誇れるまちとなるよう、市政を前進させてまいりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年の皆様の御多幸と御健康を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

は全国各地でクマの出没が相次ぎ、被害が発生するなど、市民の皆様の暮らしや企業活動に影響を与えた一年でした。

このようなか、本市の商工業、雇用を取り巻く環境も大きく変化しており、DX推進による生産力向上や省力化など、持続可能な経済基盤の強化につながる各種施策に取り組んでおります。

本年も、誰もがキラキラと輝く、明るく未来ある長野市、選ばれる・世界に誇れるまちとなるよう、市政を前進させてまいりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

**飯綱町長 土屋 龍彦**

皆様には、健やかに新春を迎えたことと心よりお慶び申し上げます。昨

ト、環境整備など幅広い活動を通じ、町づくりに大きな貢献をいただきました。その豊かな経験と知恵が町を力強く支え、住民の皆様に確かな安心をもたらしています。

今年も引き続き、皆様のご協力を賜りながら、より良い町づくりに邁進してまいります。少子高齢化が進む中で、シルバー人材センターの皆様には、農作業支援や地域イベン

ト、環境整備など幅広い活動を通じ、町づくりに大きな貢献をいたしました。その豊かな経験と知恵が町を力強く支え、住民の皆様に確かな安心をもたらしています。

要となります。町としても、皆様が活動しやすい環境づくりに努め、支援を惜しまない所存です。

結びに、長野シルバーセンターのさらなるご発展と、会員の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げ、謹んで年頭のご挨拶とさせていただきます。

上高地への旅  
匿名

就労のあい間を利用して友人と上高地への散策を楽しむこととした。松本より電車で新島々に移動した。車窓からは、秋の田の実りの黄金色に色づいた稻穂が風に揺れ秋の深まりを感じた。

上高地では、バスを利用することとした。道路は整備されていて、快適に移動することができた。河童橋からながめる穂高連峰は、神々しくも勇壮で凜々しく峰々が連峰をあびていた。梓川の流れは、どこまでも清く手をひたすと冷たく痛い程であった。昼食は持参したおむすびを食べることとした。ベンチに腰をかけ、澄んだ空気にも疲れがいやされ温かいお茶とともに何ともすがすがしい食事であった。

槍ヶ穂高連峰は日本の名峰でかつ北アルプスの象徴でもある。槍ヶ岳、前穂高岳、北穂高岳、奥穂高岳、西穂高岳と岩山の三千メートル級の尾根が続く。イギリス人

は宣教師のウエストンは、明治二十五年に槍ヶ岳に登頂した。開山祭にはウエストン祭としてアルピニストのみならず日本各地からこの上高地にやってくる。私と友人はかつて槍ヶ岳に登った。燕

## 上高地への旅

# いっぷく

～エンジョイライフ～



**雉の卵**  
浅川班 田畠 健次

実家のある山の畑を僅かばかり耕して、ねぎを植えている。暫らく手入れをしないから、ねぎと草の見分けがつかない程に荒れていっている。6月の下旬に、3時間くらいかけて、草取りをした。お蔭で現状の写真のようになっているが、その草取りの最中に、足元から、一羽の雉が飛び出して、羽ばたいて飛んで行った。「あ、これは足元に巣があり、卵もあるな!」と思つて、いくら探しても見つからない。然し気になっていたので、先日、又探したら、どうして

立った感動は忘れないものがある。昼食後は、梓川の上流を散策し明神池まで歩を進めた。木々の葉が色づき始め、だんだんと冬を迎える時間の流れを楽しんだ。また、いつか友人と一人で心ときめかす、感動を求めて山行をしたい。

岳からアルプス銀座を経て、東鎌尾根から槍ヶ岳を目指したのである。その穂先に立ち、槍ヶ岳を目指したのである。その穂先に立った感動は忘れないものがある。昼食後は、梓川の上流を散策し明神池まで歩を進めた。木々の葉が色づき始め、だんだんと冬を迎える時間の流れを楽しんだ。

また、いつか友人と一人で心ときめかす、感動を求めて山行をしたい。

毎年1・2回、足元から、飛び立つ親鳥に気つき、それを刈り残していく。別の場所で産卵して、雛を育てているに違いない。別の場所で産卵して、雛を育てているに違いない。親鳥は、戻って来な



の場合は、周囲を広く、草を刈り残していく。親鳥が戻つて来て、更に卵を産みまして、聞いた話では、雉は12個、やまどりは16個産卵するという。今日は、一個だったのだろう。巣といつても土を砂浴びのように地面を掘つて窪ませ、そこに僅かに枯れ草などを敷いたものだ。そして、メスはじつと卵を温めている。人間が相當に不注意で、近寄らないと飛び出しきことはしない。気が付いていても、身に危険が及ぶ寸前まで、離れない。春先になると、オス鳥が、あちこちで、「ケーン、ケーン」と



見つからなかつたのかなと思われるほどのがねぎの根元にちゃんと卵が一個ある。もう、親鳥は、戻つて来ない。別の場所で産卵して、雛を育てているに違いない。別の場所で産卵して、雛を育てているに違いない。親鳥に気つき、それを刈り残していく。毎年1・2回、足元から、飛び立つ親鳥に気つき、それを刈り残していく。別の場所で産卵して、雛を育てているに違いない。親鳥は、戻つて来な

近は近くの野辺でもよく見られるようになつた。写真は、無いが、雛がかえると親鳥は、雷鳥のように未だ、跳べない雛を連れて、餌探しに明け暮れる。「コウ、コウ」と声をかけて誘導する。雛は飛べないけど足は早い。一寸捕まえて、頭を撫でてやろうと思つても、蜘蛛の子を散らすように、必ず四方、八方に分散して逃げる。親鳥も逃げる。しかし程なくして、親鳥が「コウ、コウ」と鳴きながら戻つて来て、雛を集めて、また餌探しに。8月下旬になると雛はもう飛べるようになる。山の畑を歩いていて、何羽の若鳥が次々に、驚いて飛び立つ姿を目にする時、「ああ、ここまで、無事に生き延びたんだな!」と安堵する。雛は、人間の生活と密着して生活している。一つは、耕作地や草刈り跡等で打ち開けた地肌は、餌探しの恰好の場。また耕地で砂浴びをして、体の寄生虫を退治する必要があるからだと思います。だから、土を掘り返しておいで土を掘り返しておいてあげます。すると日、砂浴びに来た形跡が確認でき、しかも継続して使われています。雉を見かけたら、日本国鳥の生活を思いこしてみませんか。



鶏の声



近くに数羽のメスが餌を啄んでいる。

「シルバー人材センター〇〇です。『愛の鐘』の除草依頼がきました」「仕様書を送つて下さい」「分かりました」愛の鐘だつて、誰がつけたんだろう。メルヘンチックな名稱の正体は象山の頂上にある防災用放送設備だ。集落のある方向に向けられたスピーカーが6基鉄塔に取り付けた。山麓から頂上まで約200m、ケーブルが張つてある。草を刈るというよりは、幅10mで配線に接触する、支障となる竹や雑木を伐採する仕事である。



「シルバー人材センター〇〇です。『愛の鐘』の除草依頼がきました」「仕様書を送つて下さい」「分かりました」愛の鐘だつて、誰がつけたんだろう。メルヘンチックな名稱の正体は象山の頂上にある防災用放送設備だ。集落のある方向に向けられたスピーカーが6基鉄塔に取り付けた。山麓から頂上まで約200m、ケーブルが張つてある。草を刈るというよりは、幅10mで配線に接触する、支障となる竹や雑木を伐採する仕事である。

誰も引き受けなかつた案件に前班長が手を挙げた。大岡支所の急斜面といい、クズに覆われ、ヌルデが林立する武家屋敷跡といい、何でもありだ。日替わりで変わる現場、ビーバーを持つて何処へでも行く。一度はまつたらやめられない、機械刈りは。

「11月4日から入ります、いつもの6人で。今年最後の仕事だよ」「ありがとうございます。お疲れ様です。熊に気を付けて下さい」

「付記」令和5年を最後にこの草刈りはなくなつた。今は誰が鐘を鳴らしているんだろう。

「ルルルーン。呼び出し音が鳴る。「はい」「シルバー人材センター〇〇です。『愛の鐘』の除草依頼がきました」「仕様書を送つて下さい」「分かりました」愛の鐘だつて、誰がつけたんだろう。メルヘンチックな名稱の正体は象山の頂上にある防災用放送設備だ。集落のある方向に向けられたスピーカーが6基鉄塔に取り付けた。山麓から頂上まで約200m、ケーブルが張つてある。草を刈るというよりは、幅10mで配線に接触する、支障となる竹や雑木を伐採する仕事である。

## 愛の鐘

**機械刈り班 坂口 教道**



いる。梯子を使って登る。かなりキツイ作業だ。刈り払い機を持って、35度の斜面をよじ登る。膝の上でビーバーを操作する。スリリングな仕事だ。刈るのは2人、残りで伐採した竹木等を両端に寄せた。1日目は下から4番目の電柱から頂上まで。だらだらやらずに、一気に仕上げる。翌日5番目から頂上まで。だらだらやらずに、一気に仕上げる。無人の野山で無心に雑草を刈つて、と、何で俺はこんなことをしているんだろうと、酷く寂寥感に苛まされる。作業の辛さやキツさ、それに、ちょっとした発見や終了後の満足感などを話す。静かに聞いてもらえる。

ようやく仕事が終わつた。頂上から松代の町並みが一望できる。10万石の城下町だ。この景色を見るために今年も頑張つたんだ。職員に電話する。「愛の鐘鳴らしたんだけど聞こえた?」「うん、聞こえたよ。聞こえた、聞こえた」間を置かず、すぐに明るい反応が返ってきた。へー、世の中そんなこともあるんだ。こりやあ春から縁起がいいぞ!



## 今後の予定

- 1月5日(月) 仕事始め
- 1月23日(金) ダレデモダンス
- 1月30日(金) 会員互助会新年会
- 2月18日(水) 作品展



人事異動	
採用	退職
令和7年12月1日付 総務課職員	令和7年9月5日付 総務課職員

小川 澄 相澤 順子

Smile to Smile に対しての「紙ベース」の要望が多い現状ですが、時代の要請でもあり、「慣れ」に努力し、家族や事務局のご協力を得ながら頑張つて「早い情報」を手にしましょう。

何方かが言いました。「今しないで何時で起きる・俺しないで誰がする」と。新たな年を笑顔と元気で頑張りましょう。

記 総務部会 寺嶋 利光

## センターからのお知らせ

### 「令和7年 シルバーポイントカード」の提出について

#### 対象期間

令和7年1月1日～令和7年12月31日

#### 提出期間

令和8年1月6日～1月15日(必着)

※詳細は令和7年度版「会員のしおり」P 16～17をご覧ください。

### センターからの郵便発送の終了について

「配分金明細」および「センターだより」、「就業情報案内」の郵便発送は終了しました。また、地域班通知は令和8年4月1日以降郵便発送を終了します。

この機会に「Smile to Smile」の登録をお願いします。  
登録が不安な方はパソコン班によるサポートをご利用ください。



### ◆◆編集後記◆◆

会員の皆様、新たな年を迎える「午年」に相応しい飛躍のスタートとなつたこととご推察申し上げます。

地域班の班長・副班長の皆様中心となつて会員相互の連携共助による地域の人手不足など地域課題解決への支えとなり、社会に貢献されていることは素晴らしいことです。

酒井 昭夫 様	7月15日	柳原・長沼班
佐藤 政雄 様	9月3日	第2班
荻原 洋 様	10月7日	芹田西班
前坂 政勝 様	10月14日	第2班
石坂 丈男 様	12月11日	川中島班

おくやみ

謹んでご冥福をお祈りいたします